

- 今年のコシヒカリの出穂期は7月31日頃と近年並みであるものの、出穂後の気温が高く推移していることから収穫時期は近年よりやや早まり 9月5日頃からと予想されます。
- 高温で推移していることから胴割米の発生が懸念されます。間断かん水を継続して稲の活力を維持するとともに、ほ場ごとに籾の黄化状況を確認して、適期に収穫しましょう。
- 適切な乾燥・調製で、胴割米等による品質低下を防ぎましょう。

**今年は
胴割米発生に注意!!**

1. コシヒカリの刈取りは遅れずに

～籾黄化率 80%からの収穫で胴割米を防止～

- (1) 高温下での登熟となっているため、籾の黄化が早まっています。
- (2) 胴割米の発生を防止するため、ほ場ごとに籾の黄化状況を必ず確認して、平年より早めの黄化率80%から収穫を開始し、適期内に収穫を終えましょう。
- (3) 特に、砂壤土や枯上がり早いほ場では、刈遅れないようにしましょう。

高温下での登熟は籾の黄化が早まり、収穫適期幅が短くなるため、早めに刈取りを開始する!

表1 出穂期からみた移植「コシヒカリ」と「てんこもり」の刈取適期の目安

出穂期	7/31日頃(移植コシカリ)	8/3日頃(てんこもり)
刈取適期(目安)	9/5頃	9/13頃

※成熟期が高温の場合、刈取適期の期間が短くなるので注意しましょう。
※刈取りは、各地域の「刈取適期表示」(刈取始期を表示)を参考にして下さい。

◎直播栽培においても、刈遅れによる胴割米発生に注意しましょう!

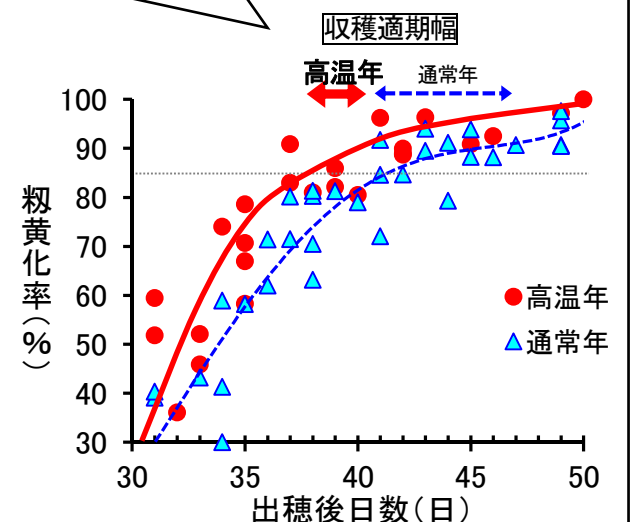
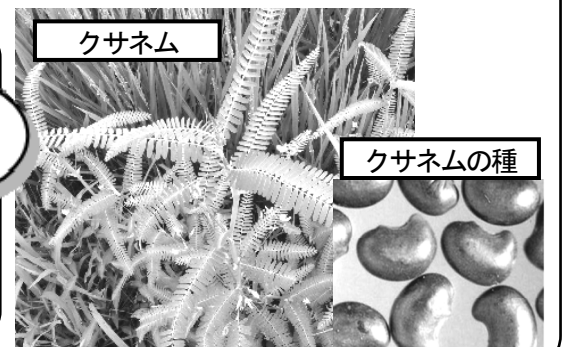


図1 登熟日数と籾黄化率(コシヒカリ)

2. 刈取り1週間前まで間断かん水を

～最後まで稲の活力を維持しましょう!～

- (1) 刈取りの5～7日前までは、「間断かん水」を行い、稲の活力を維持して胴割米の発生を防止しましょう。
※フェーン等の高温が予想される時は、事前に入水!!
- (2) クサネム・ヒエ等の異物混入につながる雑草は、収穫前に必ず抜き取りましょう。



3. 適正な乾燥で過乾燥米を防ぎましょう

～玄米水分は確実に14.5～15.0%へ!～

【乾燥作業の留意点】

- (1) ヤケ米の発生防止のため、刈取った籾は4時間以内に乾燥機に張り込み通風しましょう。
- (2) 乾燥前に、2～3時間程度の常温通風循環を行いましょう。
- (3) 乾燥ムラを出さないために、二段乾燥(籾水分が17%台になったら一時中断し、水分を均一にする)を行いましょう。
- (4) 青米の混入程度を確認し、表2を参考に乾燥機の停止水分を設定しましょう。

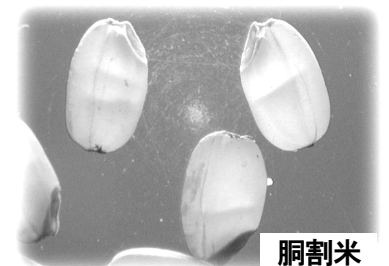
表2 乾燥機の停止水分判定の目安

100粒中の青米数	乾燥機の設定停止水分	乾燥機停止後の水分変化
0～5粒	15.0～15.5%	乾く (-0.5%)
6～10粒	14.5～15.0%	ほとんど変わらない
11粒以上	14.0～14.5%	もどる (+0.5%)

※玄米水分が17%を切ったら、手動水分計でこまめに測定しましょう。

【調製作業の留意点】

- (1) 籾摺りは、乾燥後2～3日置いて玄米水分を均一にしてから行い、肌ずれ米の発生を防ぎましょう。
- (2) 選別は1.9mmの篩目を使用するとともに、機種ごとの適正流量を守り、完全粒歩合を高めましょう。



※米卸業者からは、軽微な胴割れも防ぐことが求められています!!

令和2年産米に向けて！ 美味しいあおば米は、まず土づくりから！！

管内の土壌中ケイ酸が不足しています！改善に向けて取り組みましょう。

1. 土づくり資材の散布 ～土づくり資材は継続して散布しましょう！～

- (1) アルカリ成分を含むケイ酸質資材を毎年、適正量を施用しましょう。
- (2) 土壌pHが低いと稲体にカドミウムが吸収されやすくなります。カドミウムの吸収を抑えるため、土壌pHは6.0～6.5を目標に改良しましょう。
- (3) 籾殻、わらはは重要な土づくり資源です。絶対に燃やさず、鋤き込みましょう。
- (4) 営農組織や集落単位で、効率的な土づくりに取り組みましょう。

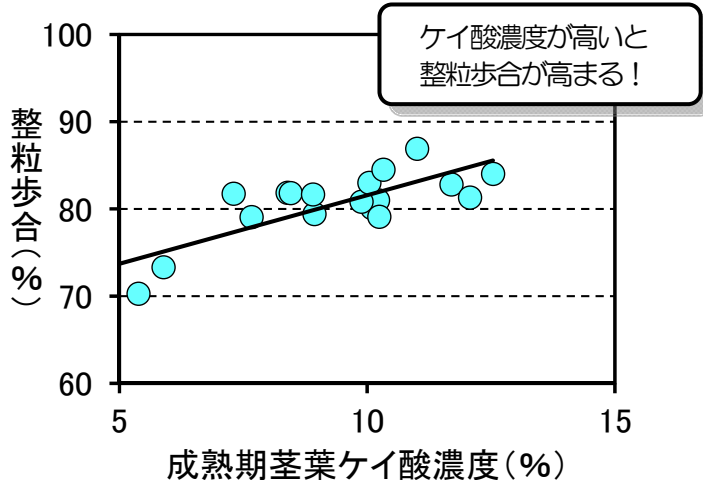
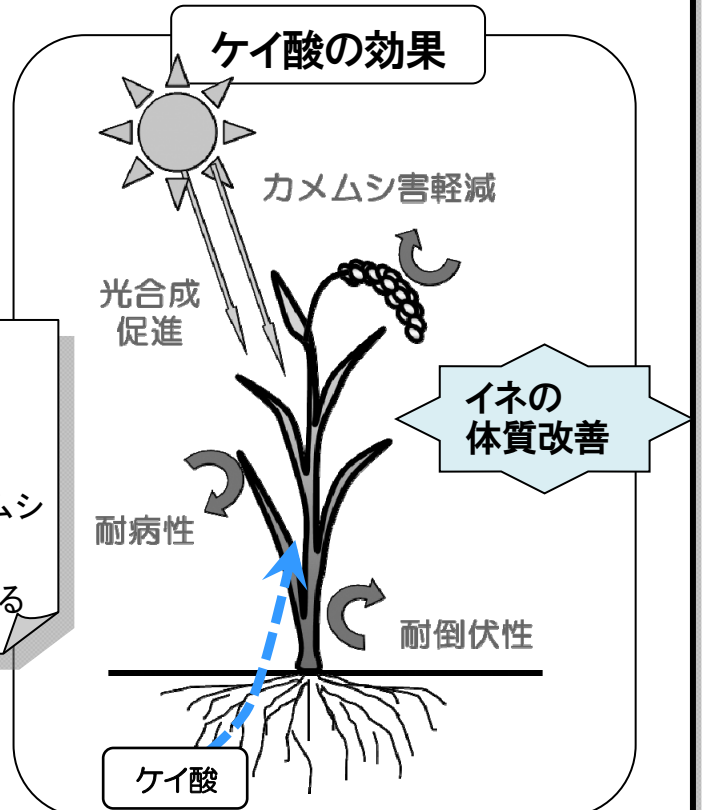


図1 成熟期の茎葉のケイ酸濃度と整粒歩合の関係

- ケイ酸の施用により
- ①高温条件でも品質安定
 - ②倒伏に強くなる
 - ③割籾の発生を抑えカメムシ被害が軽減される
 - ④いもち病などにも強くなる



【土壌改良（ケイ酸&アルカリ分）資材の施用の目安】

JAあおばでは、ケイ酸質資材の購入代金に対して、2%の助成があります。是非ご活用ください。

資材名	施用量 (kg/10a)	主な成分	ポイント
あおばスーパーケイサン+ <small>プラス</small>	90	ケイ酸 42.5%、アルカリ分 31.1% (分析例)	ケイ酸含有量が高く、pHも矯正。
シリカロマン	100	ケイ酸 25%、アルカリ分 45%、リン酸 5%、鉄 5%、苦土 7%	ケイ酸、リン酸を補給、pH矯正効果高い。
有機加里入 シリカロマン	100	ケイ酸 20%、アルカリ分 36%、リン酸 5%、加里 4%、鉄 4% 苦土 5%、有機 20%	シリカロマン + 有機質・く溶性加里 穂肥の加里・リン酸を秋・春先に省力散布。
あおばフミンエース	100	ケイ酸 20%、アルカリ分 25%、リン酸 4%、鉄 6.7%、苦土 2% 腐植酸 8%	ケイ酸や腐植を含む、各成分をバランスよく配合。

※上記の他にも土壌改良資材を各種取り揃えておりますので、各地区営農経済センターへご相談下さい。

2. 有機物の施用 ～有機物の施用であおば米の食味向上！！～

- (1) 牛ふん、豚ふん、籾殻堆肥や発酵鶏ふんの施用に努めましょう。
- (2) 堆肥が確保できない場合は、地力増進作物を作付け、鋤き込みし、腐植を増やしましょう。

【堆肥】(秋施用)

堆肥名	施用量(10a 当り)
牛ふん堆肥	1～2t
豚ふん堆肥	
籾殻堆肥	2t
発酵鶏ふん	75～105kg

【地力増進作物】(秋播き)

<ヘアリーベッチ>

品種	晩生品種
播種時期	9月下旬～10月上旬
播種量	4～6kg/10a
鋤き込み時期	4～5月

転作(大豆、ニンジン等)の前作におススメ！！



富山県土づくりスローガン

いざ土づくり！
美味しい富山を届けよう！



3. 深耕で作土層を拡大 ～根を深く伸ばし、稲の活力を向上！～

- (1) 耕起時は、トラクターの作業速度を落とし、作土深15cm以上を確保しましょう。
- (2) 秋耕後は、排水溝(深さ20cm以上)を設置し、排水口と連結しましょう。

秋の土づくり運動

期間 9月15日～11月15日